

ポップカルチャーと連携した地方創生

倉吉市 企画産業部 商工観光課
垣原 将志



倉吉市は、鳥取県中部に位置する人口約5万人のまちです。古くは伯耆国の国庁が置かれ、文化的・経済的・政治的な中心地として繁栄してきました。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている打吹玉川地区(通称白壁土蔵群)は、江戸後

期から昭和初期にかけての町家や商家が数多く残っていることから、山陰の小京都とも呼ばれ多くの観光客でにぎわっています。赤い石州瓦に

白い漆喰壁、黒い焼き杉の腰板を配した土蔵が立ち並ぶ風景は、倉吉市ならではのどこか懐かしい落ち着いた景観を形づくっています。



白壁土蔵群

ポップカルチャーと倉吉市の出会い

このような、ゆったりとした時が流れる日本の原風景ともいえる倉吉のまちに、画期的な変化が訪れたのは平成26年でした。世界的なフィギュアメーカーである(株)グッドスマイルカンパニーの日本

初となる工場を誘致したことをきっかけに、アニメやフィギュアといったポップカルチャーやエンターテイメントに絶大な影響力を持つ同社との連携によるまちづくりが始まったのです。

平成27年春には、グッドスマイルカンパニーの協力の下、当市の博物館で同社のフィギュア約600体を展示した「フィギュア博覧会」を開催したところ、約1ヶ月の会期中に全国41都道府県から約2・5万人が来場し、大きな話題となりました。同時に、『フィギュアやおタク系のものって、何だかよくわからないが、人が来てまちがにぎやかになるぞ!』と、これまでポップカルチャーへの関心があまりなかった地元の見光・まちづくり関係者、住民などにザワザワと波紋が広がりはじめました。

全国初!

ウェブ上の架空都市との姉妹都市提携

平成28年4月1日には、架空都市「倉野川市」と前代未聞の姉妹都市提携を締結しました。時期的なこと重なり、エイプリルフールのネタとも取れる試みか



ひなビタ♪
(©Konami Digital Entertainment)

ら、ウェブメディアを中心に大きな話題となりました。

そもそも倉野川市とは、(株)コナミデジタルエンタテインメントが平成24年からウェブ上で展開するキャラクタ



姉妹都市提携記者会見

ターバンドコンテンツ「ひなビタ♪」の舞台となる架空のまちで、この倉野川市の設定が倉吉市によく似ているとのことから、『倉野川市のモデルは倉吉市ではないか?』とファンの間で話題になっていったのです。



平成30年には、地元事業者や行政、観光協会、商工会議所が連携し、ひなビタ♪と倉吉を盛り上げていくことを目的に「倉吉ひなビタ♪応援団」を結成しました。今では約70団体が参画し、定期的に“作戦会議”を開催し各団体との情報共有や連携

しています。架空都市との姉妹都市提携の取り組みは、市とグッドスマイルカンパニー、コナミデジタルエンタテインメントの3者が連携し、ひなビタ♪を活用した効果的な情報発信や若者の観光誘客を目指すキックオフともいえるものだったのです。以降、倉吉市では毎年イベントを開催し多くのひなビタ♪ファンにお越しいただ

「ひなビタ♪」とは「テーマは地域活性化」とある地方都市「倉野川市」で暮らす5人の女の子がバンドを結成し、音楽の力で自分たちの住む商店街に活気を取り戻そうと奮闘する「地域活性化」をテーマとした物語。ウェブ上で展開される物語をおとして、楽曲の制作過程や込められた想いなどを共有しながら、CDやゲーム、ライブイベントなどで楽しむことができる。

「倉吉に帰りたい」、
「お帰りなさい」の関係構築



を図るとともに、食べ歩きイベントやキャラクターパーネル探しなど、年5回のキャラクタートの誕生日イベントを開催するほか、Twitterを活用した情報拡散などを行い、地元事業者・住民が中心となつて継続的に多くのひなビタ♪ファンに訪れていただく工夫をしています。どのイベントでも共通して意識していることは、いかに倉吉の認知度を高めるか、来訪動機をつくれるか、まちを



和泉一舞さん誕生日祭 2019



地元商店街とファンによる夏祭合同踊り子連

ひなビタ♪ファンってどんな人？

今後に向けて、関係人口の創出・移住促進へ

歩いてもらえるか、ファンが喜び地元が儲かるかということ。これらの取り組みをおして、「倉吉に帰りたい」という言葉がひなビタ♪ファンの中では合言葉のようになっていきます。地元事業者や住民は「おかえりなさい」とこれを迎えることで交流も進んでおり、新たな倉吉ファンが着実に増えています。中には倉吉へ移住し、地元住民として「倉吉ひなビタ♪応援団」の活動に参加いただく方も出てくる等、共にまちづくりを行っていく関係にも発展しています。



春日咲子さん誕生日祭 2019

少子高齢化が進む中、白壁土蔵群に代表される文化財を観光資源として、若者世代や外国人の興味関心を喚起する新たな地域資源(ポップカルチャー)と融合・調和させることで、これまでにない観光需要の創出が図られています。これからも、継続的に市内関係団体はもとより県や国との連携のもと、バーチャルとリアルの交錯するまちおこしの展開による関係人口の創出・移住の促進等、倉吉市ならではの地方創生へ繋げていきます。